

特44
76

山岸 彌平 編輯
仲光

075026-000-2

特44-76

仲光

山岸 弥平/編

M13

CEL-0954



東 京 圖 書 館					
一	四	分	八	音	和
冊	號	二	九	樂	書
		六	函	類	門
		架			

仲光

山岸彌平編輯

是と多田は清中ははく。藤原仲
 光と一者あり。清もつ子美史田前と。
 わらわを中記に筆を並れり前
 の藤原仲光と云ふ。明書氏
 重と清の書に由りては。以りて
 藤原仲光と云ふ。其の由りては。

いふ口なれば 上 其言誰かあるに
父の事も云ふ事には話をせぬ
庭の雪が人よるせんも何某と
よのひもあつた一とて初佩刀と
取給へし走り出さや仲光の仲光
老角の神よ取分は此のりしは
美史のちたは所乃程を痛く記

満

いふ仲光の心とあつて夢うへに
寺の燈を並べし字文はあつて
明若武常と噂まじは寺に並て
乃甲斐の行事そ 山道心あつて
去あまのちたは折檻と結ん
先くの佩刀と結りしは 可憐美
史と討て集りしはあつて

の神氏に神も知見あま。仲光俱
は其終ふいあま。一^レ記を^レ行^レ事^レを
の院とて宵中^レるあま。先^レく四月^レ
の夕^レ人言^レ語道^レ以^レの外^レに思
まそ^レの^レ可^レと者^レの^レ記^レと^レ存^レる^レた^レが^レ程
まそ^レと^レ存^レる^レの^レら^レか^レく^レ行^レと^レ終^レ
とそ^レ一^レ先^レ落^レ一^レ中^レと^レの^レた^レと^レ存^レい^レ如^レ

何より上^レの。只今^レ余^レれ^レ思^レえ
某^レを迷^レ惑^レけ^レて^レ。 ^英い^レま^レ仲^レ光^レ只
今^レ自^レと^レ述^レ一^レつ^レの^レ仲^レ光^レ制^レす
ま^レの^レり^レ美^レ文^レと^レ討^レく^レあ^レる^レせ^レと^レ思
路^レふ^レと^レ我^レ物^レ越^レ一^レつ^レ也^レ。早^レ自^レ首
と^レあ^レ父^レの^レは^レ四^レ日^レ一^レあ^レる^レ ^英さ^レる^レ健
先^レ成^レ事^レと^レ伝^レい^レ物^レふ^レ。所^レ以^レ行^レと^レ伝

い共一先落一りりしむるはてふか
何とせしと。又四使乃まゝとすの荒
笑止や。借何と侍りて。元方何事も
報ひ有らば。夏世の家傳。少行させ
き子い。妙し。からと害さる。かもし
皆宿縁。おた如。思去。てあまハ
理世に悔て。報ひ。人の替あら

し。只自。あは。不。思。る。恨。あ。る。
う。ま。世。れ。中。と。あ。つ。境。生。に。夏。事。と。
語。り。さ。れ。時。移。る。早。首。と。れ。か。件。
先。と。言。は。れ。葉。を。洞。を。を。む。ら。我。思。し。
う。り。た。れ。表。某。の。年。に。初。め。ら。る。
今。に。替。り。い。し。は。る。あ。と。惜。る。ぬ。
命。も。と。あ。ま。り。て。心。は。紅。ぬ。口。惜。さ。

あふり主は命を捨てし事。弓矢取所
乃習ひ也。然しやかよはに事ふ余の
際。幸高を乞ふ。美事をも立す
彼方への思。此方へ思ひ子。申ふ
と中へ。仲老る。身は是程よ
惜し。行とうせし。わあんと
猶心をも弱し果ては死なむ

親よ。己の惜まじぬ身を行と唯かく
只今境中に情のほろきうを
情い人の存なき。今は際乃命は
若くは。己の弓矢は家の名を惜ま
被方此方を知ま。ゆがたは毛理乃
或は。己の子。己の君をいふは
よ。身と心弱し。や白檀。らふに

わろい我子を思ひ切つて親心なる者
討は現なき我子を夢とたし
きり〜
きり〜
きり〜

来り心中慕ひ〜又美丈夫前を
中へ行す〜
よひ美丈夫と討事て
そ侍り〜あう家左社に美丈夫の来

練は有つ〜
〜某を扱扱てあたら〜ひら所よ
やあち甲は仲走おられ〜
室切の言葉〜
おと存の如く〜
子と云者〜
子ら美丈夫〜

百あ一人 百 ちの事一あてい。あてい

四前此の別れをせしと。え結句言

と先さひ。同く仲老ふを四暇終

たりし。務智をやとあひい 満 心強く

い言はま九。悟あつし。美史丸とも我

子なり。とくを別く二人の者よあま

あ。 音 やまよ。位習ひ。を余

お誰を透れぬと。神志を免す。角ふ

す。 音 子。 音 子。 音 子。 音 子

乃道おま。 音 子。 音 子。 音 子

と法乃とわさ。 音 子。 音 子。 音 子

早 是は教の惠ふ僧都をてい。おまを

子細ひて。 音 子。 音 子。 音 子

と急く。先の方。 音 子。 音 子。 音 子

誰ハも清ハりて。金ハも心ハれ僧ハ也乃ハ下ハ向ハ

うハつたハよハ 仲ハ光ハ 徒ハをハ幸ハ考ハ

事ハハ惟ハ先ハ某ハ々ハ集ハまハるハ由ハりハ人ハ

公ハのハよハいハにハりハ上ハいハまハ心ハのハ修ハ也ハのハ出ハ

あハてハ 満ハ 山ハのハもハはハたハるハとハ人ハ

畏ハてハいハ法ハ方ハへハ入ハりハ心ハ得ハりハいハ 徒ハ

只ハ今ハハ何ハのハ為ハれハ出ハまハるハいハそハ 山ハ

只ハ今ハ集ハるハ半ハ終ハりハ矣ハにハわハるハいハまハ集ハ出ハ方ハのハ

四ハ半ハとハりハしハ為ハまハるハとハいハ 其ハのハ事ハにハ

てハいハ余ハりハよハ不ハ思ハ儀ハ乃ハ者ハ少ハりハ行ハ仲ハ光ハ

よハりハ分ハ出ハひハてハいハ 其ハのハ事ハあハてハいハまハるハ

心ハとハ静ハめハてハ守ハりハるハれハいハ美ハまハはハ前ハをハ

去ハりハせハてハのハはハ疑ハりハ成ハりハにハ神ハ

走ハ心ハよハあハらハ様ハいハてハとハ世ハれハとハ君ハとハもハ

小童一人と只。我子れ昔壽う善と切
美文として四月ふあこい。あれい我に
かして只の福乃。美文れは不審ゆ
おし。まを上と美文を。く。備仲乃
の前。社美しきれ。は満。社程素練
ある美文なり。と。昔の壽を叙き。諸を
なるとや自害あると。は。やく諸事

と。は。善く。昔の壽。佛事と思ふ。美文を
助き。く。ひ。給。と。流。一。き。れ。と。
福。心。を。よ。く。と。早。知。事。と。り。う。り。
仲。光。給。り。れ。給。き。よ。い。盡。や。菊。は。酒
仙。家。よ。入。り。れ。七。世。の。孫。よ。迄。平。を
登。り。あ。り。は。や。親。と。子。れ。一。世。の。琴。の
二。方。の。か。を。好。し。ふ。親。子。り。む。の

中七

上

畫也

數久しはる酒宴うあ

仲老。目出香折あれ一指は舞

久。義久一との酒宴あう柳

鴛鴦の友あう水は浮沈をヤ下安

かぬ号は結わき。義や良我は

幸壽う有たうは義史のあとお舞

をいせ。仲老の拍子歌。思今乃

涙を感涙と思うはいつも嬉う

思ひ洞餘の月の舞は交る神乃

上露も下あもおくれをうつ浮世乃

あひ。昨日の歎も今日に憶う都は

是をありとあ心は僧道は義史成

伴ひゆりたれと仲老を道ふう

樂うあう。流方れは不審人為非乃

かまひて幸習ひ学文意深は
ませと四郎りて帰るるかむ
幸壽りの供あると志し
見送りし志けいおしを
見送りし志けいおしを
見送りし志けいおしを

明治十三年三月廿一日御届
全 年四月 出版

定價金拾錢

編輯兼
出版

岐阜縣平民

山岸彌平

大坂府下東區北濱
二丁目四十番地寄留

